



全国中学校体育大会バドミントン競技 猪苗代中 男女団体3連覇の快挙

8月17日から20日まで、静岡県富士宮市で開かれた第43回全国中学校体育大会バドミントン競技の団体で、猪苗代中が男女とも優勝を果たし、アベック3連覇という快挙を成し遂げました。

猪苗代中特別バドミントン部は、東京電力福島第一原発事故により富岡町から避難した富岡一中の生徒らで構成し、富岡一中時代を含めると男子が4年連続4度目、女子は3年連続4度目の優勝です。

ダブルス2戦、シングルス1戦で争う団体戦では、男女とも準決勝までストレート勝ちで順調に勝ち進み、決勝で男子は埼玉菜中（埼玉）、女子は九州国際大付属中（福岡）をいずれも2-1で下し、栄冠を手に入れました。

さらに男子ダブルスで本田大樹選手（3年）・筑後恵太選手（2年）組が、女子シングルスで女子主将の仁平菜月選手（3年）がそれぞれ優勝を果たし、男子シングルスに出場した男子主将の山澤直貴選手（3年）、男子ダブルスの久場圭祐選手（3年）、佐藤雄輝選手（3年）、金子真大選手（2年）・久保田友之祐選手（2年）の両ペアと女子ダブルスの由良なぎさ選手（2年）・永井瀬秀選手（2年）組がいずれも3位以内に入る活躍を見せました。

前後町長らに活躍を報告 「町民の声援が力になった」

選手らは8月26日、宇南山忠明校長、齋藤巨監督と共に町役場を訪れ、前後町長らに同大会での活躍を報告しました。

報告会で齋藤監督は「猪苗代に避難したばかりの頃は先の見えない状況に不安やとまどいもあったが、町や町民の皆さんの応援のおかげで、今大会でも子どもたちは伸び伸びと力を発揮し、素晴らしい成績を残すことができた」と報告。男子の山澤主将は「歴代の先輩たちに負けない成績を残すことができた。自分たちが活動できるのも町や学校関係者の皆さんの応援のおかげ。来年も後輩たちが頑張るので引き続き応援をお願いします」、女子の仁平主将は「チームが一丸となって全国制覇の目標を達成できた。町の皆さんの温かい声援があって力が出せた。今後も町民や県民の皆さんに夢と勇気と感動を与えられるように頑張っていく」と話しました。

前後町長は「試練に屈することなく、素直な心で一歩懸命に取り組む姿にただ感動するばかり。皆さんの活躍が福島復興のシンボルとして光り輝き、被災者の希望となることを願っている」と活躍をたたえました。



Pick Up 今月のイベント

町の代表が健闘を誓う

福島市のあづま球場で行われる第7回市町村対抗福島県軟式野球大会の町代表選手壮行会は8月28日、学びいなかで開催されました。

式では、前後町長が「参加市町村の選手と交流を深め、最後まで元気にプレーしてください」とあいさつを述べ、阿部貴弘監督と石田雄仁主将にバットとボールを手渡しました。

阿部監督は「昨年11月にチームを編成し、今年4月から2週間のペースで練習している。町代表としての誇りを胸にチーム一丸となって勝利を目指します」とあいさつしました。

猪苗代町チームは9月15日、初戦突破を目指して柳津町チームと対戦します。皆さんの応援をよろしくお願いします。

猪苗代町チームのメンバーは次のとおりです（敬称略）。

監督 阿部貴弘
コーチ 岩橋康紀、渡部実
選手 石田雄仁、鈴木浩貴、喜多見吏、野口貴之、山本晃史、遠藤久之、古川智康、浅川太志、渡部雄裕、野口裕貴、野矢大翼、鈴木大介、長谷川裕史、安藤雄一、加藤寿之、加藤健嗣、鈴木茂喜、笠間善一

広報猪苗代

Sep.2013
9
No.635

Contents — 【目次】

- 02 Pick up
- 03 猪苗代中が全中バド男女団体3連覇
- 04 まちのわだい
- 08 笑顔でこんにちは／スクールトピックスほか
- 10 いなわしろタウンページ
- 14 暮らしの情報広場
- 16 みんなの美術館／食生活改善推進員コーナー

今月の表紙



【撮影日】 8月27日
【撮影場所】 千里幼稚園

園内の畑でジャガイモ掘りに挑戦した千里幼稚園の園児たち。今年は豊作で、大きいイモがゴロゴロ。「こんなに大きいのがあった」「先生見てー」とあちこちから喜びの声が上がりました。